

令和 8 年度 学力向上全体計画

学校名	墨田区立錦糸中学校
校長名	和田 浩二

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<1 年> 英語、数学ともにすべての観点において目標値を達成した。 <2 年> 国語、数学、社会、英語の各教科において、すべての観点を全国平均以上、もしくは同等の正答率であった。 <3 年> 数学、社会、英語の各教科において、すべての観点を全国平均以上、もしくは同等の正答率であった。	○全国平均値を 5 ポイント以上下回る観点が、昨年度の 1 つから今年度は 6 つへと増えた。 (令和 7 年度 : 1 観点 から 令和 8 年度 : 6 観点) ○全学年にわたる理科の定着不足基礎的・基本的な「知識」の定着に課題が見られる。 【参考 : 目標値を 5 ポイント以上下回っている観点の内訳】 ・ 1 年 : 理科 (1 観点) ・ 2 年 : 理科 (1 観点) ・ 3 年 : 理科 (2 観点)

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
○「将来こんなことがしたい、こんな仕事につきたい」という夢や目標を持っている生徒の割合が全国平均を上回っており、将来に対する目的意識がしっかりと育まれている。 ○日々の授業や学校での活動を通して、「自分が人間として成長した」と実感している生徒の割合が全国平均よりも高く、学校生活が内面的な成長や自己肯定感の向上につながっている。	○学校の授業以外で家庭学習を全く行わない生徒が 15%存在する。 ○授業の予習・復習を行わない生徒や、テストで間違えた問題のやり直しをしない生徒が 40%存在する。 ○読書を全くしない生徒が 30%以上を占めている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
○一人一台のタブレット端末を活用し、学習支援アプリでの意見共有や、AI 学習教材を用いた自主学習に積極的に取り組むことで、学力の向上につながっている。 ○各生徒が得意とする教科への学習意欲は高く、進んで学ぶ姿が見られる。 ○校内学習コンテストを実施し、多くの生徒が高得点を収めることで、基礎的・基本的な学力の定着につながっている。	○授業中の定型的な受け答えには積極的ながら、探究的な場面では自分の考えを発言したり振り返りを適切に記述したりできない生徒が多くみられる。 ○家庭学習は時間が短いだけでなく目的意識が希薄な単純作業になっているため、指導の工夫が必要である。 ○各教員が生徒のつまずきや課題を的確に把握し、授業内で補完できるよう内容を再構築して実践することが求められる。学習の振り返りで実践していく。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学習の基礎基本の定着

○基礎・基本定着のための時間設定

既習事項の確認、得た知識を基にした説明活動、およびテストの振り返りの時間を意図的に設け、確かな学びの定着を目指す。

また、自分が何を学び、何を身に付けたのかメタ認知を深めるため、一単位時間ごとおよび単元ごとの振り返りの時間を大切にする。

○個別最適化された学びを実現する ICT の活用

「Qubena」「ミライシード」などの AI 学習教材を活用し、授業・家庭学習で主体的に取り組める時間と機会を確保する。さらに、蓄積された学習履歴を教員が確認し、生徒一人一人に対する適切な励ましや個別アドバイスを行うことで、基礎・基本の確実な定着を図る。

○各種学力調査の分析と学力向上プランの作成

学力向上委員会を中心に各種学力調査の結果を多角的に分析し、その結果や生徒の日常の学習状況を踏まえて、校長が「学力向上を図るための全体計画」を策定する。各教員はその計画に基づく「学力向上プラン」を作成して授業実践・検証を行い、組織的な学習支援を展開する。特に、正答率の低かった課題については引き続き学習を繰り返すとともに、次学年の指導へ引き継ぎ、同様の誤答や無解答を防ぐ対策を講じる。

(2) アウトプット活動の充実による深い理解と学びの定着

○思考力・判断力・表現力の育成に向けたアウトプット活動の充実

学習内容の表層的な理解にとどまらず、確実な定着と発展を図るため、各単元の学習においてアウトプット活動を積極的に取り入れる。「Pages」を用いた論理的なレポート作成、「Keynote」を活用した効果的なプレゼンテーション、さらに「iMovie」を用いた動画制作など、学習目的に応じた表現方法を選択・駆使し、インプットした知識や技能を自ら再構成し、他者に向けて発信・表現を行うプロセスを通じて、筋道を立てて思考する力、豊かに表現する力を総合的に育成します。

(3) 家庭学習の定着と自己肯定感を高める学習コンテスト等の実施

○ICT 教材「Qubena」を活用した家庭学習の推進と定着

家庭学習においては、ICT 教材「Qubena」の活用を推進し、基礎学力の確実な定着を図ります。生徒自身が振り返りを行う習慣を育てることで、主体的な学習姿勢の確立を目指します。

○校内学習コンテストの実施と各種検定の推奨による学習意欲の向上

校内において 5 教科を対象とした学習コンテストを実施し、基礎的・基本的な学力の定着と、年間を通じて目標を持ち、計画的に学習に取り組む態度の育成を図ります。学習への意欲を高めるため、満点獲得者には「満点賞」、達成率 90%以上の生徒には「高得点賞」を授与して表彰します。また、漢字検定・実用英語技能検定・実用数学技能検定の受検を積極的に推奨し、錦糸中学校での受検機会の確保と合格に向けた手厚い支援を行います。

3 「令和 9 年度 墨田区学習状況調査」の目標

- ◇ 全学年、すべての教科の校内平均で、全国平均以上の値を目指す。
- AI 学習教材を適切に用い、基礎的・基本的な知識の定着を図る。
- 各学年各教科において、DE 層の割合を墨田区の割合以下にする。